一般質

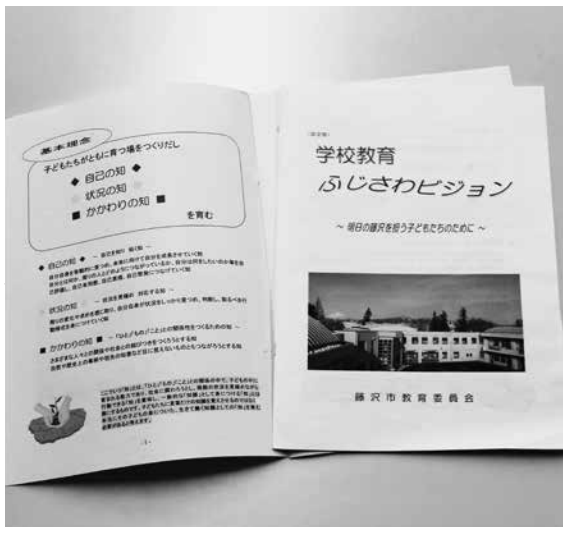
教育条件整備の充実
一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導 ともに学びともに育つ教育を目指す

竹村 雅夫（かわせみクラブ）

質問 今まで困った子と思われてきた子どもたちの中に、発達障がいの子がいたのではないかと考えると、体罰による児童生徒指導の問題点が浮かび上がってくる。指導の必要な「困った子」なのか、支援を求めている「困りごとを抱えた子」なのか、という視点について教育委員会はどのような考えであるか見解を聞きたい。

答弁 学校生活において課題のある児童生徒に対して「困った児童生徒」ではなく「困りごとを抱えた児童生徒」という視点に立ち、子どもたち一人ひとりに合った支援を考えていくことが大切であると考えている。

質問 一人ひとりに寄り添うことのできる教育条件整備についてどのように考えるか、教育委員会の見解を聞きたい。



教育理念に基づいて改定された「学校教育ふじさわビジョン」

答弁 教育委員会では「ともに学びともに育つ」教育を目指し、障がいのあるなしにかかわらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かい指導を行っている。そのために、通常学級、特別支援学級、特別支援学校など保護者の意向や児童生徒の教育的ニーズに合わせて選択できるよう努めている。

今後は、学校教育相談センターを中心とした教育相談の充実、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒が通常学級に在籍する子どもたちとともに学ぶ、交流及び共同学習の推進を図り、教育条件整備の充実を進めていく。

自転車走行環境整備 市独自の条例を

松下 賢一郎（藤沢市公明党）

質問 自転車走行環境の整備を進める上で、今後策定される自転車走行環境整備計画の実効性を高め、自転車走行のルール遵守や市独自の整備方針などを裏づけるためにも、（仮称）自転車の安全利用に関する条例といった市独自の条例を制定することも検討する必要があると考えるが、市の見解を聞きたい。

答弁 近年、自転車の危険走行による交通事故の多発や自転車利用者のマナーの低下が社会的問題となっており、自転車の安全利用に関する条例を制定する市町村がふえている。

この条例の目的は、自転車利用者のマナーの向上や自転車事故の未然防止を図り、安全・安心なまちづくりを目指すものと理解している。

現在、本市では、自転車走行環境整備計画の策定に取り組む中で、自転車利用者の交通ルールの遵守や交通安全に関するソフト施策などの検討を進めており、自転車安全利用に関するルール化を整備している。条例の制定については、自転車安全利用に関する条例の趣旨や目的を踏まえ、まずは、自転車走行環境整備計画の中に、条例規定の自転車利用者と市の責務等を施策として盛り込むことなどにより位置づけていきたいと考えている。

貴重な三大谷戸 保全計画の策定を

原 輝雄（さつき会）

質問 貴重な自然をたたえる三大谷戸を今後どのような方向性で取り扱うのか、市の見解を聞きたい。

答弁 川名清水、石川丸山、遠藤笹窪の三大谷戸は、本市にまとまって残る貴重な緑地空間及び生物生息空間であると認識している。

三大谷戸はそれぞれ環境が異なるが、本市が保全、整備の施策を展開するに当たっては、それぞれの個性を生かす中で貴重な自然環境を後世に引き継ぐことも重要と考えている。

質問 市内三大谷戸の一つに石川丸山谷戸が位置づけられたことなどにより、谷戸の自然の素晴らしさが広められ、多くの方が谷戸を訪れるようになる一方、谷戸内が荒らされることが想定される中で、今後の谷戸全体の保全に向けた計画やルールづくりについて市の見解を聞きたい。

貴重な自然が残る石川丸山谷戸

答弁 現在、石川丸山谷戸については、ルールづくりができていない状況である。

今後は、石川丸山ホタル保存会、丸山谷戸援農クラブを初めとした、現地活動を行っている地域団体と協議し、都市緑地と特別緑地保存地区に区域を分けてそれぞれに適したルールを早期に検討していく。

また、保全計画に基づき、市の役割として立入防止柵や谷戸の案内、注意板等の施設整備を行い、地元住民や多くの来訪者が気持ちよく自然を楽しむことができる環境を作っていく。

地元を舞台とした映像作品の誘致
観光振興・地域経済の活性化
市内事業者のビジネス機会参入を図る

市川 和広（自民クラブ藤沢）

質問 昨年度までのフィルム・コミッション事業の実績をみると、アニメなどのコンテンツを生かした取り組みによる経済効果は高いと考える。

このような取り組みを今後さらに拡充し、地域経済の活性化につなげることが必要と考えるが、市の見解を聞きたい。

答弁 フィルム・コミッション事業は、設立後十年が経過し、経済効果も含め観光振興だけでなく、市内コンテンツ産業の活性化につながる事業として期待している。

本来、フィルム・コミッション事業はあくまでツールと考えており、この事業により生まれたコンテンツを他の誘客宣伝事業に活用し、観光誘客や経済活性化に結びつけることが重要と考えている。市としては、官民で構成されている湘南藤沢フィルム・コミッション委員会の委員である民間事業者などと連携し、今後、作品のコンセプトづくりから参加できるような地元を舞台とした映像作品の誘致を積極的に図り、その新たなコンテンツの二次活用による関連グッズの商品開発等、市内事業者がさまざまなビジネス機会に参入できるマッチングを庁内関係部門と連携して行い、観光振興と地域経済の活性化へとつなげていきたいと考えている。

善行地区のまちづくり 今後の進め方は

永井 譲（かわせみクラブ）

質問 善行地区のバリアフリー化に当たり、地区の特徴と課題をどう認識しているか聞きたい。

答弁 善行地区は、台地と谷間の入り組んだ複雑な地形であり、斜面地が多く地形的にも高低差が大きい地区である。地区内に存在する善行西俣野線や石名坂善行線などの主要な道路は急な勾配を持つところが多く、歩道の幅もバリアフリーの基準を満たしていない道路が多く存在している。そのため、いかに効果的な手法を取り入れていくかが大きな課題であると考えている。

質問 高低差のある特徴的な地形に対し、バリアフリー化に向けて今後どのように進めていくのか聞きたい。

答弁 善行地区は、高低差のある状況から地域のバリアフリーに対するニーズは高いものと考えている。高低差のある地形上の問題については、道路構造の改善では解決できない問題であり、手すりや休憩施設等の補助的施設を整備することにより利用者の負担軽減を図ることが必要であると考えている。バリアフリー化に向けて、今後検討を進めるに当たっては、地域のニーズを的確に捉えていく必要があることから、自治会や地域団体の方と意見交換等を行いながら意見の集約を図っていきたい。

通学路の危険箇所 今後の点検調査は

井上 裕介（さつき会）

質問 平成二十四年度に行った通学路緊急合同点検実施調査の結果及び対策状況について聞きたい。

答弁 学校から危険箇所として四十九カ所の報告を受け、学校、教育委員会、市及び警察署により合同点検を行った。

その結果、四十六カ所を対策必要箇所と判断し、三十五カ所について対策を終えた。対策が終了していない十一カ所のうち一カ所は、市が二十四年度から四カ年の予定で歩道の整備を行っている。残り十カ所については、横断歩道の設置など交通規制を伴う対策となるため、所轄警察署が神奈川県警察本部に上申などを行っている。

質問 開発や人口増加などに起因する交通量の変化は、スクールゾーンにも大きく影響を及ぼすと考える。日々変化する環境に対応するため、今後どのように点検を行い、調査を実施していくのか聞きたい。

答弁 教育委員会では、緊急合同点検の成果を踏まえ、通学路の安全対策をさらに進めるために、五月初旬、各小学校に対し通学路の危険箇所の報告を依頼している。

この報告を集約して、庁内の関係各課による通学路安全対策検討会議を六月末に開催する予定である。この会議の結果、必要と判断した箇所について、学校、関係各課、警察署等と合同点検を行う予定である。

ふじさわ元気バザール 今後の実施計画は

桜井 直人（隗・自民党）

質問 ふじさわ元気バザールは平成二十五年度から二十六年度にかけて試行実施とのことだが、当初の期待が冷めないうちに本格実施する取り組みが必要だと考えるが、今後のスケジュールについて聞きたい。

答弁 ふじさわ元気バザールは、市の重点政策である「地域経済を循環させる」の実現を図るための具体的な事業として位置づけている。

その実現に向けては、スピード感を持った取り組みが重要であると考え、二年間の試行実施とその検証結果を踏まえて、二十七年度には本格実施に移行する予定である。

現在、本格実施に向けた実行委員会での議論において、二十七年度に供用開始となる藤沢駅北口通り線を活用し、警察との協議や地元の理解を前提に、春はふじさわ元気バザール、夏は藤沢宿・遊行の盆、秋は藤沢市民まつりなど、年間を通じて藤沢駅周辺のにぎわいの創出を図り、市域全体の活性化につなげる象徴的なイベントとしていくことを選択肢の一つとして検討している。

今年度のスケジュールとしては、八月末までの効果測定結果と、七月の藤沢宿・遊行の盆、九月の藤沢市民まつりでの元気バザールゾーンの出展結果を踏まえ、十月から実行委員会を再開し、二十六年度の試行実施概要と二十七年度からの本格実施に向けた検討を進めていく。